

メアブッシュ市のようす

自然・住環境



メアブッシュ市の気候は、四季がはっきりしており、夏は日本のような湿気がなく比較的涼しいですが、近年は真夏に30度を超す日もみられます。冬は偏西風の影響で、西から暖かい空気が運ばれてくるため、緯度の割には寒さも厳しくなく、暮らしやすい地域です。

大都市近郊にあって、オアシスのように存在するのがメアブッシュ市です。面積の約3分の2は緑地や森林、農耕地となっており自然が身近にあります。豊かな自然環境は子どもたちにとって絶好の遊び場になっており、特に、メアブッシュ市の東側を南北に流れるライン川は市域の11kmに及び、河畔は市民のくつろぎの空間です。そこではスポーツが活発に行われ、週末ともなるとたくさんの方が集まってきます。サイクリング、インラインスケート、ジョギングなどが楽しまれているほか、キャンプ場も整備されており、その周辺は気持ちの良い散歩コースになっています。

住環境は、町そのものは比較的新しいのですが、昔ながらの農家や豪農の住居は、現在でもなおライン地方の文化風土を深く彩り、伝統が息づく街は「田園都市」モデルとして高齢者の定住率も高く、一方では子どもを育てる環境には最適とされています。18歳以下の青少年人口比率は全人口の約17.64%を占めており（2008年在デュッセルドルフ日本国総領事館調べ）、今なお若い夫婦や家族の数が増えています。

大都市からメアブッシュ市に引っ越す理由は、「自然に恵まれているから」だけではなく、メアブッシュの優れた社会インフラが関係しています。管理の行き届いた幼稚園、完備された学校教育体制、医療制度のほか、小売業、手工業、飲食サービス業界などもメアブッシュの生活環境をより快適にしています。

メアブッシュ市のようす

行政・政治



メアブッシュ市は、厳密に言うとドイツ連邦共和国・ノルトライン＝ヴェストファーレン州・デュッセルドルフ行政管区・ノイス郡に所在します。行政管区とは日本で言えば府や県のようなもので、州は近畿地方・関西圏などの規模にあたります。

メアブッシュ市の市長は6年の任期で市民による直接選挙で選ばれ、2人の副市長は8年の任期で市議会により選出されます。現在の市長は、アメリカ・ミールケ＝ヴェスターラーゲ氏です。ヴェスターラーゲ市長は、2014年（平成26年）に市長に選ばれました。

市の組織機構は、3つの事務区分で分かれており、官房・財務・法務などを所管する第1部局、市民・安全、環境、社会支援、学校・スポーツ・文化などを所管する第2部局、都市計画、道路・水路、土地、不動産などを所管する第3部局から成り立っています。市役所全体では600名を超える職員が勤務しています。

メアブッシュ市議会は、54人の議員から構成されます。市議会議員の任期は5年で、市民による選挙で選ばれます。前回の市議会選挙は2014年（平成26年）5月に実施されました。市議会は任務遂行のためにさまざまな委員会を有しており、市政の各種問題に関して審議を行っています。

経済

メアブッシュ市には、IT等科学技術産業を中心に日本企業が多数所在しており、そこで働く人や家族など、多くの日本人が在住しています。経済環境としては、デュッセルドルフ国際空港、ケルン・ボン国際空港に近く、また高速道路で効率よく国内および近隣諸国にアクセスできる立地を生かして事業所用地を整え、企業誘致に力を入れています。

メアブッシュ市に隣接するデュッセルドルフ市は、ルール工業地帯の南西部にあり、日本企業の進出も盛んで、ドイツでも特に多くの日本人が在住しています。日本総領事館などがあるインマーマン通りは、多くの日本企業がオフィスを構えており日本人街の様相を呈しています。

メアブッシュ市のようす

歴史



メアブッシュ市は、紀元前7世紀頃にはすでに人が住んだ跡が見られます。その後、ローマ帝国の植民地となり、18世紀末からのヨーロッパにおける革命や混乱が続く時代には、フランスに占領されるなどしました。戦後は近隣の市町村との合併や再編成を経て、1970年（昭和45年）にメアブッシュ市が設立され、2010年（平成22年）に市制40周年を迎えました。

日本とドイツの歴史関係をひもとくと、ドイツがまだプロイセン王国だった1860年（日本は江戸時代の安政6年）、日本と国交を結ぶ目的で、オイレンブルク伯爵が東アジア遠征艦隊とともに日本を訪れ、翌年1861年に徳川幕府と修好通商条約を結びました。

しかし、そのオイレンブルク伯爵が日本に来た最初のドイツ人というわけではありません。19世紀の初期にはすでに幾名かのドイツ人が来日していました。1823年に来日し、長崎の出島のオランダ商館で医師として働いていた歴史的にも有名なシーボルトも、実はドイツ人です。

文化

文化・芸術活動の保護・促進に重点を置いているメアブッシュ市には、市の劇場「WASSERTURM（貯水塔劇場）」があり、寄席演芸やコメディークラシック、映画、子ども向けミュージカル、コンサート、シアターアンサンブルなど、年間150を超える演目が公演されています。

また、「ROCK AM TURM」という若手のバンドを支援する団体が主催するロックミュージックイベントは、メアブッシュのアーティストたちの活躍の場として大変な人気があります。そのほか、今から30年ほど前に設立されたライン地方の方言を使って劇を行う「LOTUMER BURETHEATER」という劇団は、「WASSERTURM」などで毎年新しい大衆劇を披露しています。

メアブッシュ市のようす

また、郷土の射撃協会による6つの民俗祭・郷土祭は多くの人に親しまれている人気行事で、古くからの伝統・慣習の象徴となっています。メアブッシュ市で最も古い歴史を持つ団体のひとつに、ランク地区の聖セバスティアヌス会があり、古文書によると530年以上の歴史があると言われていています。射撃祭では射撃競争が行われたり、大規模なパレードが行なわれたりと、人々の目を楽しませてくれます。射撃協会の活動は郷土祭の場にとどまらず、年間を通して数多くの催しが行われ、地域親睦の場を提供しています。

その他にもさまざまなカーニバルに関する行事が催されたり、市庁舎前の広場では移動遊園地などが開催されるなど、メアブッシュ市は歴史に裏打ちされた多彩な文化が広がっています。

芸術



メアブッシュ市内では、いたるところで芸術作品に出会うことができます。芸術の持つ力を認識し、公共スペースである芸術作品は市のイメージを特徴づけています。市の建造物の価値を引き上げるため造形芸術家が関わったりしています。テロイの風車、WASSERTURM(貯水塔劇場)、旧戸籍局、旧貨物駅といった建造物は市文化局や芸術家協会の様々な展示の場として利用されています。

また、メアブッシュ市には、数多くの芸術家とその創作活動拠点を構えてきました。中でも有名なのは、戦後のドイツを代表する芸術家のエーヴァルト・マタレー(1887~1965)です。マタレーは、ベルリンの美術学校で学んだ後、メアブッシュ市のビューダリヒ地区で長く創作活動を行いました。

1918年(大正7年)、ドイツの十一月革命後にベルリンで結成された前衛芸術家による「十一月グループ」に参加し、最初は画家として出発しましたが、1920年ごろから木版と彫刻を始めました。マタレーは作品の題材に人間や動物を好んで取り入れ、その作品は大胆なフォルムと磨き上げられた表面が特徴的です。1932年デュッセルドルフ芸術学校で教職に就きましたが、翌年ナチスによって免職になりました。第二次世界大戦後にデュッセルドルフ芸術学校に復職し、数々の公共事業にも携わりました。とりわけ教会建築に関わり、デュッセルドルフ市から寄贈された、広島の世界平和記念聖堂の扉もマタレーの作品の一つです。

メアブッシュ市のようす



また、マタレーに学んだ芸術家としてヨーゼフ・ボイスがいます。ボイスの功績は、誰でもが創造者となり得ると考え、芸術の意味を広げて作品を社会とみなし、人々の生活のあらゆる分野に作用するものと位置づけたところにあります。このボイスの思想は70年代から80年代にかけて、後の多くの芸術家に影響を与えました。

メアブッシュ市では、散策ルートに「マタレーとその弟子達」というテーマで、デュッセルドルフ芸術学校卒業生による独特な作品群を設置しています。このアートコースを散策すれば、芸術作品を鑑賞することが可能となっています。

教育



ドイツの教育制度は各州の学校法等によって定められています。そのため、州によって制度が若干異なったりするので、常設の各州文部大臣会議により相互の調整が図られています。

ドイツでは、どの子どもにも9年間の就学義務があり、公立の学校は無料となっています。学校始は9月から始まり、通常6歳(日本と違い6月30日までに満6歳)になると、住居地の日本の小学校にあたる4年制の基礎学校に入学します。素養、成績の評価、親の希望などによって、第5学年からは基幹学校(Hauptschule)、実科学学校(Realschule)、ギムナジウム(Gymnasium)などの進学先を決定します。基幹学校は第9学年(15歳)までが義務教育ですが、第10学年まで進むことも可能です。実科学学校は第10学年(16歳)で、ギムナジウムは第12学年(18歳)で卒業となります。

ギムナジウムを卒業して、アビトゥア(高校卒業資格試験)の資格を取得すると、総合大学へ進学することができます。実務重視の大学教育を行う専門大学へは、実科学学校の卒業試験に受ければ進学できます。メアブッシュ市内には基礎学校が9つ、基幹学校、実科学学校が1つずつ、ギムナジウムが2つ、特別学校が1つあり、メアブッシュ市が属するノルトライン・ヴェストファーレン州には、59の総合大学及び専門大学が存在します。

メアブッシュ市のようす

基幹学校、実科学校修了後は、国が認定する350種の訓練職種の中から1つを「二元制職業教育システム」によって習得します。二元制職業教育システムは世界でも珍しい制度で、週に1～2日は職業学校で専門的な理論を学び、週に3～4日は実践として企業や職人の下で訓練を行うシステムになっています。教育の期間は2年から3年半で、職種によってその期間が変わってきます。

スポーツ



メアブッシュ市はスポーツ活動が盛んです。市内には50以上もの民間のスポーツクラブが存在し、市民の4人に1人は何らかのスポーツ団体に所属しています。サッカーや水泳はもちろんのこと、乗馬、ジャズダンス、ノルディックウォーキング（スキーのストックを使ったウォーキング）など、さまざまなスポーツが選択できます。ドイツでは、通常学校は半日制で、日本のように放課後のクラブ活動がなく、子どもたちもこれら地域のスポーツクラブで活動します。

メアブッシュ市内には、スポーツ活動のため、18のスポーツホール、11の運動場、屋内プールやテニスコート、プール競技場（フランスの鉄球を使ったゲーム）、さまざまなジョギングコースや、サイクリングコース等が整備されています。これらスポーツ活動に係る場所の総面積は17万㎡に及んでいます。

また、ドイツのスポーツは、サッカー、アイスホッケー、バスケットボール、ハンドボール、テニスなどが有名です。中でもサッカーはとても人気があります。「ブンデスリーガ」という観客動員数世界最高のサッカーリーグがあり、全チームが優勝を目指します。モータースポーツの主要国でもあり、2010年11月に史上最年少の23歳4か月でF1王者となったセバスチャン・フェテルや、7度の王者に輝いたミハエル・シューマッハを輩出しています。